



# 實性

平成二十四年 第二号 春彼岸発行

## 春のお彼岸のご案内

### お彼岸の由来

今年の冬は、各地で豪雪等もあり、大変寒く厳しいものでした。

「お彼岸」は、ご先祖の供養、お墓参り、亡き人の供養も大切ですが、本来、私共自身の修行の為の一週間です。私共は、日常、一生懸命仕事をし、家庭を守り、忙しい日々を過ごしております。

そんな私共が、自分を見つめ、反省をし、仏道を実践するのが、春・秋の一週間で、これが「彼岸」です。迷い、煩惱の世界より、向こうの岸にある悟りの世界へと、河を渡るという意味です。

この「彼岸」は、春・秋一回ありますが、「彼岸」というと「春彼岸」のこと、「秋彼岸」のことを「後の彼岸」と言つたりも致します。

「彼岸」にいたるための修行、これを六波羅蜜(ろくはらみつ)といいます。布施(ふせ)持戒(じかい)忍辱(にんにく)精進(しようじん)禅定(ぜんじょう)智慧(ちえ)の六つです。

自分自身を見つめ修行することは、父母、兄弟、あらゆる人のお陰で、今自分が生きていることに気づかされ、その感謝の表れが、お墓参りにつながるのでです。

自然をたたえ、生物をいつくしみ、人々を愛し、先祖を敬い、亡くなられた人々を偲び、感謝の気持ちでお墓参りをしたいものです。

三月二十日(火)お中日  
十一時より

参加費(お布施)五千円

皆様お揃いで是非ご参加下さい。  
(記念品を用意しております。  
お楽しみにして下さい)

お彼岸入り 三月 十七日(土)  
お彼岸中日 三月 二十日(火)  
お彼岸明け 三月二十三日(金)

お彼岸のお塔婆はお早めに  
お申し込み下さい。



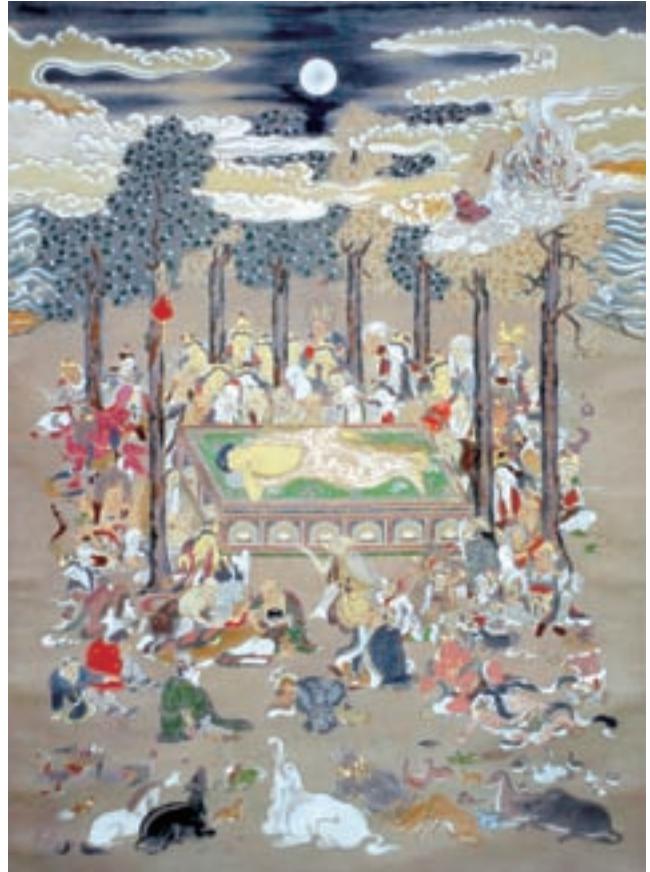
彼岸会法要



お釈迦様入滅の地クシナガラ、夜明の  
涅槃堂とサーラ樹林(沙羅双樹)



平成19年2月15日「涅槃会」の夜明に、  
クシナガラ涅槃堂でお参りをする住職



涅槃図

## 涅槃会

右上にあります涅槃図には、お釈迦様入滅の折、お弟子様、仏様、菩薩様、王様、老若男女、鳥獸虫等、あらゆる生き物が馳せ参じ、嘆き悲しんでいる様子が描かれています。その動物達の中に、猫の姿がありません。しばらくして猫が現れ、何故遅くなつたのかと問われ、猫が申すには、「お釈迦さまにお会いするには化粧をせねばと思い、念入りに綺麗にして参りましたので、この時間になつてしまひました」と、故に、間に合わず涅槃図には描かれず、又、「それではお前は一生化粧をしていなさい」ということで、猫は今でもいつも顔をナメているとのことです。

### 涅槃図の猫

涅槃会とは、お釈迦様の入滅(亡くなられた)された一月十五日です。お釈迦様の伝道は、北インドのガンジス河を中心に、四十五年間の永きにわたりました。八十歳となられたお釈迦様は、阿難(アーナンダ)と数名の弟子をともなつて、王舍城(ラージヤグリ)からクシナガラへと、伝道の旅をなさるのです。自らの入滅を予想され生まれ故郷のカピラ城へ向かわれたようです。重病にもかかわらず、弟子達の助けをかりつつ、お釈迦様はさらに歩みを進められるのです。カツクッターハ河で沐浴され、疲れを癒やされた後、ビハール州クシナガラのサーラ樹林(沙羅双樹)にたどりつかれます。お釈迦様は、身を横たえられたまま、集まつた人々を前にして最後の説法をなされます。よく戒めを守り、五欲を慎み、静寂を求めて努力をし、定を修して悟りの知恵を得るべきことを示されるのです。そして、静かに如来としての永遠の涅槃に入られるのです。阿難をはじめ弟子達の嘆きは、想像を絶するほど深いものであったのでしよう。涅槃図には、真白い花をつけたサーラ樹の下で、お釈迦様は、頭を北に顔を西に向け、右手を枕にして横臥し、周囲には十大弟子をはじめ、老若男女、鳥獸達さえも嘆き悲しみ、百獸の王である獅子までが、仰向けてなつて慟哭している様子が描かれています。図の右上には、どうり天からかけつけたお釈迦様の母君、マヤ夫人が描かれています。



本堂に、新たに調った五具足と灯籠です。



華立：紅蓮



燭台



香炉



燭台



華立：白蓮



灯籠



籠

昨年三月十一日の東日本大震災の折、損傷致しました仏具類が、壇信徒の皆様の貴重なる御寄進により、左記の仏具が調いました。五具足(香炉・燭台・華立)と灯籠です。旧仏具よりも、一段と立派な物が入りました。彼岸法要、また、お参りの際には是非ご覧ください。仏具修復の勧募は、本年五月のお施餓鬼会にて区切りとさせていただきます。

## 仏具修復

新たに調えた香炉には、左・写真の様に彫刻が刻まれております。



旧仏具は、震災により見た目よりもかなり損傷しております、本堂内左側のお不動様の前に、お飾りしております。



## 東日本大震災御位牌

平成二十三年三月十一日の東日本大震災にてお亡くなりになられた方々の追善の為に、御位牌にてご供養してまいりましたが、白木の御位牌を塗りの御位牌を作り替えました。

本堂内右側の位牌棚にお飾りしてございます。お参りの際には、どうぞお手をお合わせ下さい。



## 法然上人八百年大遠忌

法然上人八百年大遠忌は、昨年(平成二十三年)に予定されておりましたが、昨年三月十一日の東日本大震災の為、順延となりました。

法然上人もきっと、ご自身の御法要よりも、震災への手助けの方が優先と思われたことであらましょ。

総本山・知恩院では、半年遅れ、大本山・増上寺では一年遅れにて、本年四月一日より十一日間にわたり厳修されます。

## 実性寺のホームページ

実性寺のホームページを、昨年の十二月二十八日より公開致しております。各法要や行事予定、実性寺の各情報をご覧いただけます、パソコンをお使いの方、ホームページの閲覧が可能な方は、御一覧下さい。



下記のホームページアドレスへ  
<http://www.jittushoji.com>

# 修正会報告

一月三日、多数の檀信徒各位のご参加の元、修正会が厳修されました。当曰は、国家安泰・各家先祖代々・各家家内安全等をお祈りいたしました。ご参加いただいた皆様には、絵馬にお願い事をお書きいただき、奉納いたしました。

清宴では、紙切り、柳家我太楼師匠の司会進行のビンゴゲームと、お正月の雰囲気をかもし出していただきました。

来年度の修正会も多数の皆様のご参加をお待ちしております。

今年度参加された方々は、次の方々です(順不同)



本堂にて修正会法要



絵馬の奉納



清宴の様子

開場時間  
木戸銭六百円  
実性寺本堂

## 実性寺寄席

四月八日(日)花まつりにあわせ  
「第十一回実性寺寄席」を開催致します。

四月八日(日)

五時半

六時

六百円



# 花まつり

四月八日(日)は、お釈迦様がお生まれになられた誕生日です。各お寺で、灌仏会が開催されます。お釈迦様の誕生をお祝いし、誕生仏に甘茶をかけにおいて下さい。本堂前(御拝)に花見堂が出ております。

お参りいただいた方に  
「甘茶のティーバック」をさし上げます。

日時　四月八日(日)  
場所　十時より四時まで　実性寺　本堂前



## 法要について

お申し込みは、日時が重なる場合がありますので、お早めにお願い致します。  
お位牌・写真をお持ち下さい。

清宴を客殿でご希望の場合は、お早めにお願い致します。

尚、仕出し料理は、指定出入りのお店がございますのでお問い合わせ下さい。

亡くなられた方への影膳をご用意下さい。

お供物と致しましては、ご本尊様に、生花・果物・お菓子をお供え下さい。

お墓用の生花は、ご本尊様生花とは別にご用意下さい。

ご法要等のお塔婆を建立される方は、遅くとも十日前までにお申し込み下さい。

お電話よりファックスの方が正確でございますのでご利用下さい。

## ファックス番号

03(3883) 3227

## 振替口座

00190-6-258873

振込用紙をご入用の方はお申し出下さい。

東京都足立区花畠三一十七一十八

電話 03(3883) 8866

〒121-0061

淨土宗實性寺